

日教振第 74 号
平成22年 7月 5日

各日本語教育機関
設置代表者 殿

財団法人日本語教育振興協会
理事長 佐藤 次郎
(公印省略)

平成22年度日本語学校教育研究大会の開催について(通知)

当協会の事業運営につきましては、日ごろ多大の御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
このたび、本大会を別紙1の実施要項により開催することといたしましたので、多数の方に御参加いただきますようお願いいたします。

なお、参加申込みについては、教育機関の代表者による推薦のほか、個人の希望による直接の申込みも受け付けておりますので、下記の点に御留意の上、教職員にお申し込みくださるようお願いください。

記

1 参加申込みについて

参加希望者は、当協会 HP から別紙4の「参加申込書」を取り出し、必要事項を記入の上、ファクスまたはEメールで7月20日(火)までに提出してください(提出期限厳守)。

なお、1校から多数の参加が可能であり、両日又はいずれか1日のみの参加でも結構です。参加費は一人2,000円で当日受付で申し受けます。

2 交流会について

1日目の日程終了後、交流会を実施しますので、御参加の有無を別紙4の参加申込書に御記入ください。会費3,000円は、当日受付で申し受けます。

なお、取り消される場合は、7月29日(木)までに総務部あて連絡してください。連絡のない欠席の場合は、出席の如何にかかわらず、会費をいただきます。

3 昼食について

大会当日の昼食は用意しておりませんので、各自でおとりください。

(添付資料)

問合せ先

- 別紙1 実施要項
- 2 大会趣旨
- 3 日程表(HP掲載のみ)
- 4 参加申込書(")
- 5 会場地図(")

総務部(小野寺(陽)・上戸)
TEL 03-5304-7815
FAX 03-5304-7813
Eメール y-onodera@nisshinkyo.org
HP <http://www.nisshinkyo.org/>

平成22年度日本語学校教育研究大会実施要項

1 趣 旨

財団法人日本語教育振興協会維持会員機関に勤務する教職員等を対象として、日本語学校教育のより一層の充実並びに日本語教育機関としての社会的地位の確立を目指し、各機関で展開されている豊かな教育実践を機関を超えて共有することを通して教職員の資質の向上を図る。

2 日 時

| | | | |
|-----|--------------|-------|-------------|
| 1日目 | 平成22年8月3日(火) | 受付 | 9:10～ |
| | | 研究協議等 | 10:00～18:00 |
| | | 交流会 | 18:30～ |
| 2日目 | 平成22年8月4日(水) | 研究協議 | 10:00～16:30 |

3 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟 及び センター棟

住所：〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
03-3467-7201 fax 03-3467-7797

4 参加資格等

- (1) 財団法人日本語教育振興協会の維持会員機関に勤務する教職員、その他関心のある者とする。
- (2) 1教育機関から多数の方が参加していただいて差し支えありません。ただし、定員(300人)を超える場合は、お断りする場合がありますのでお含みください。また、両日の参加が難しい場合は、1日だけの参加でも差し支えありません。

5 参加費について

2,000円(資料代等を含む。当日受付で申し受けます。)

6 交流会について

3,000円(当日受付で申し受けます。)

7 日程及び内容(別紙参照)

8月3日(火)

| | |
|-------------|-----------------------|
| 9:10～9:50 | 受付 |
| 10:00～10:25 | 開会あいさつ |
| 10:25～14:00 | 基調講演及び発題 |
| 14:15～16:50 | パネルセッション |
| 17:00～18:00 | 日本語教育能力検定試験の改定についての説明 |
| 18:30～ | 交流会 |

8月4日(水)

| | |
|-------------|--|
| 10:00～12:00 | 補助事業・プロジェクト事業研究発表 |
| 12:00～14:00 | ポスター発表・デモンストレーション |
| 14:00～15:20 | 自由研究発表 |
| 15:30～16:00 | 「定住外国人の子どもの教育等に関する政策懇談会」の 意見を踏まえた文部科学省の政策のポイント等に関する説明 |
| 16:00～16:30 | まとめ |
| 16:30 | 閉会 |

<第22回 日本語学校教育研究大会趣旨>

大会テーマ『日本語学校の今日的役割と専門性』

大会委員長 加藤 早苗(インターカルト日本語学校)

本年度の大会は、(財)日本語教育振興協会が日本語教育機関の質的向上を目指して、その設立の年である平成元年より行っている教育研修事業から数え、22回目の大会となります。当初の名称は「日本語教員研究協議会」で、主に大学の先生をお招きして講演をしていただくという形式でしたが、その後、維持会員である日本語学校がより主体的に参加しようという趣旨から、教員による研究発表がプログラムに加えられ、さらに、平成18年からは名称を「日本語学校教育研究大会」と改め、それまで教員のみであった参加対象を日本語学校に勤務するすべての教職員(日本語教員・生活指導担当者・事務職員)へと広げ、大会の企画から運営まですべてを維持会員校による委員会が行うという形に進化してまいりました。

第22回の本大会は、当初、前年度のテーマ「『留学生30万人計画』時代の日本語学校教育」を引き継ぐ形で進学先や企業等との「連携」をテーマにするべく企画を練っておりました。しかしながら、世界規模の金融危機や国内少子化による影響、政権交代等々、我々を取り巻く環境の変化を受けて、今こそ私たち日本語学校は、日本で唯一日本語教育を専門に行う教育機関として自らのアイデンティティを認識し、その役割と存在意義を示す時であるとして、「日本語学校の今日的役割と専門性」をテーマに据えるに至りました。

具体的な内容といたしましては、日本語教育と日本語学校の歴史に深く携わっていらした水谷修先生(名古屋外国語大学学長・(財)日本語教育振興協会会長)による基調講演、続けて「日本語学校が持つべき時代認識」について、日本語学校の「外」の立場から勝又美智雄先生(国際教養大学教授・元日本経済新聞記者)が、「内」の立場からは日本語学校を代表して大会専門委員が発題を行います。そして第一部にあたる「日本語学校の専門性と開発力」と題したパネルセッションにおいては、「リクルーティング」、「アドバイジング」、「教育」をテーマとして、全国から八校の特色ある学校運営をする日本語学校が、その現状と今後の展望について発表をし、フロアも交えた意見交換も行います。これらのプログラムを通して、今日まで築き上げてきた日本語学校の役割とそれを下支えする専門性、今後の展望を日本語学校内外に示すことを大会委員会は目指しています。

第二日目は、補助事業研究、プロジェクトの報告及び発表をはじめ、バラエティに富んだ自由研究、ポスター、デモンストレーションを予定しています。さらに今年は、日本語教育能力検定試験について(財)日本国際教育支援協会からの説明も予定されています。

大会委員会では、今こそ日本語学校のアイデンティティを示すべき時と認識し、以上のように第22回日本語学校教育研究大会を企画いたしました。

平成22年度日本語学校教育研究大会日程(案)

日 程 : 平成22年 8月3日(火)～4日(水)

場 所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

カルチャー棟(3日)、センター棟(4日)

テーマ : 『日本語学校の今日的役割と専門性』

1日目 8月3日(火)

| | | |
|---------------------------|--|------------------------|
| 10:00 - 10:05 (5分) | 日本語学校教育研究大会開会 研修委員長 奥田 純子(コミュニケーション学院) | カルチャー棟 小ホール |
| 10:05 - 10:25 (20分) | 開会あいさつ (財)日本語教育振興協会理事長 佐藤 次郎 文部科学省 (予定) | |
| 10:25 - 10:50 (25分) | 大会趣旨説明 大会委員長 加藤 早苗(インターカルト日本語学校) アンケート調査「多様な日本語学校教育」を踏まえて | |
| 10:50 - 11:40 (50分) | 基調講演 名古屋外国語大学学長 (財)日本語教育振興協会会長 水谷 修 「日本語学校の今日的役割と専門性」 | |
| 11:40 - 13:00 (80分) 昼 食 | | |
| 13:00 - 14:00 (60分) | 発題「日本語学校が持つべき時代認識」 発題1 国際教養大学国際教養学部教授 勝又 美智雄 発題2 新宿日本語学校校長 江副 隆秀 | カルチャー棟 小ホール |
| 14:00 - 14:15 (15分) 休 憩 | | |
| 14:15 - 15:35 (80分) | パネルセッション「日本語学校の専門性と開発力」 パネルセッション1「リクルーティング」 習志野外語学院学院長 戸田 安信 イーストウエスト日本語学校校長 林 隆保 パネルセッション2「アドバイジング」 東京中央日本語学院学生部主任 西村 輝夫 清風情報工科学院校長 平岡 憲人 | カルチャー棟 小ホール |
| 15:35 - 15:45 (10分) 休 憩 | | |
| 15:45 - 16:50 (65分) | パネルセッション3「教育」 岡山外語学院学院長 片山 浩子 アークアカデミー新宿校教務主任 齊藤 千鶴 | |
| 16:50 - 17:00 (10分) 休 憩 | | |
| 17:00 - 18:00 (60分) | 日本語教育能力検定試験の改定について (財)日本国際教育支援協会 日本語普及課作題主幹 川端 一博 | カルチャー棟 小ホール 小ホール |
| 18:30 | 交流会 | レストランとき |

2日目 8月4日(水)

| | | |
|---------------------------|---|---------------------------------------|
| 10:00 - 10:55 (55分) | 補助事業発表 1 マルチメディアを活用した入門・基礎日本語教材開発 (日本学生支援機構東京日本語教育センター) | センター棟 304 室(80) |
| 10:55 - 11:05 (10分) 休憩 | 補助事業発表 2 日本語学習者の学習段階別作文コーパス構築とその分析 (日本学生支援機構大阪日本語教育センター) | 310 室(160) |
| 11:05 - 12:00 (55分) | 補助事業発表 3 中国の大学、高等学校の入学試験の認証書の成績を活用した事例及びその成果について (習志野外語学院) 大阪府専修学校各種学校連合会 留学生生活指導委員会 プロジェクト発表 1 「ビジネス日本語カリキュラム・教材開発プロジェクト」 プロジェクト発表 2 「日本語教育スタンダードプロジェクト」 特定課題研究「EPA 日本語研修の課題と今後の展望」 新井 永鎮(学校法人新井学園赤門会日本語学校 常務理事) 特定課題研究ラウンドテーブル 「大学と日本語教育機関の連携事業について 日本語教育機関の側の意義と課題」～連携による実践事例を通して～ 西原 純子(財)京都日本語教育センター校長 自由研究発表 1 江副文法を中学の国語授業に取り入れる(共同研究・実践報告) 水谷 美穂子 他 1 名(新宿日本語学校) 自由研究発表 2 日本語学校で開発された可視化された教授法をろう教育に活かす(共同研究・実践報告) 糠信 匡男 他 1 名(新宿日本語学校) | 401 室(120) 402 室(120) 409 室(80) |
| 12:00 - 14:00(120分) | 昼 食 | |
| 12:00 - 14:00 (120分) | <ポスター発表> 補助事業発表 4 到達目標とパフォーマンス課題を明示した読解教材の開発 - 学習と教育の透明性を図るために(2) - (コミュニケーション学院) 補助事業発表 5 『自律学習を促す多文化理解 - 日本事情ノート - 』の開発 (東京外語専門学校) 補助事業発表 6 日本語学習者(就学生等)が日本企業に就職する際に必要なコミュニケーション力測定テスト作成の試み (アカデミーオブランゲージアーツ) ポスター発表 1 『NIE3ヶ年プロジェクトの概要と実践報告』 - 日本語教科としての NIE と活動の広がり - 宮 弘美 他 2 名(東京国際大学附属日本語学校) ポスター発表 2 目標達成のための教材『初級で CAN-DO!』の開発と実施 齊藤 潤一 他 2 名(カイ日本語スクール) ポスター発表 3 本校における国際文化交流会の持つ役割 高塚 素乃巳 他 1 名(国際ことば学院日本語学校) ポスター発表 4 ポートフォリオを活用した学生サポート | 416 室 |

| | | |
|---|--|--|
| | <p>小木 佐智子 他2名(久留米ゼミナール日本語学科)</p> <p><デモンストレーション></p> <p>補助事業発表 7</p> <p>コロケーションで学ぶ語彙習得のための POD CAST 教材</p> <p>内藤 タ子 他2名(カイ日本語スクール)</p> <p>デモンストレーション発表 1</p> <p>Excel によるビザ関係の申請書類作成について</p> <p>中元 宣孝(英数学館岡山校日本語科)</p> <p>デモンストレーション発表 2</p> <p>日本語教育のためのEラーニングシステム</p> <p>猿橋 泉 他1名(新宿日本語学校)</p> <p>デモンストレーション発表 3</p> <p>「新日本語歌はじめ+愛」(日本語学習者のための歌)<世界で使える歌教材をめざして></p> <p>西川 格 (英数学館岡山校日本語科)</p> | |
| <p>14:00 - 14:35</p> <p>(20分 + 15分QA)</p> | <p>自由研究発表 3</p> <p>上級会話分析型の試み～語用論的知識の向上を目指して</p> <p>松尾 恵美 他2名(カイ日本語スクール)</p> <p>自由研究発表 4</p> <p>moodle を利用した講師間知識共有支援の試み</p> <p>甲斐 晶子(双葉外語学校)</p> <p>自由研究発表 5</p> <p>実践授業「映画で読み解く日本語・日本社会」</p> <p>～「視聴読解」教材のもたらす豊かな実りと気づき～</p> <p>萩原 秀樹 他1名(インターカルト日本語学校)</p> <p>自由研究発表 6</p> <p>日本語学校が地域と外国人を「つなぐ」</p> <p>-文化庁委託『日本語教育事業』から得たことを今後に-</p> <p>谷口 真理 他3名(インターカルト日本語学校)</p> <p>自由研究発表 7</p> <p>つながりをデザインする～学習者・教師・教材～</p> <p>深江 新太郎(愛和外語学院)</p> <p>自由研究発表 8</p> <p>一日5分程度で出来る音声教育の提案とその効果</p> <p>安田 由紀子(四日市日本語学校)</p> <p>自由研究発表 9</p> <p>論文における書き手の思考を表す文末表現の使用について</p> <p>-「ダロウ」「ト思ふ類」を中心に-</p> <p>升岡 香代子(学校法人長沼スクール東京日本語学校)</p> <p>自由研究発表 10</p> <p>中級レベルにおけるノートテイキングの授業</p> <p>大手山 藍衣子 他1名(ラボ日本語教育研修所)</p> <p>自由研究発表 11</p> <p>非漢字圏の学生に対する漢字教育の試みと早期教育の重要性</p> <p>河野 桐子(NILS)</p> <p>自由研究発表 12</p> <p>日本留学試験改定に伴う記述問題対策の一試案</p> <p>藤井 永久子 他1名(福岡日本語学校)</p> | <p>センター棟</p> <p>304 室(80)</p> <p>310 室(160)</p> <p>401 室(120)</p> <p>402 室(120)</p> <p>409 室(80)</p> |
| <p>14:35 - 14:45</p> <p>(10分) 休憩</p> | | |
| <p>14:45 - 15:20</p> <p>(20分 + 15分QA)</p> | | |
| <p>15:20 - 15:30(10分) 休憩</p> | | |
| <p>15:30 - 16:00</p> <p>(30分)</p> | <p>「定住外国人の子どもの教育等に関する政策懇談会」の</p> <p>意見を踏まえた文部科学省の政策のポイント等に関する説明</p> <p>文部科学省大臣官房国際課企画調整室長 阿蘇隆之</p> | <p>センタ 棟</p> <p>セミナーホール</p> |
| <p>16:00 - 16:30</p> | <p>全体会 まとめ</p> | <p>セミナーホール</p> |

当初認定番号

平成 2 2 年度日本語学校教育研究大会
《 参 加 申 込 書 》

財団法人日本語教育振興協会

理事長 佐 藤 次 郎 殿

機 関 名

所 在 地

TEL

FAX

標記の大会に参加を申し込みます。

記

| フリガナ 参加者 | 職 名 | 経験年数 | 参加日 (印) | 交流会 (3,000 円) |
|---------------------------------|-----|---------|--------------|--------------------|
| | | 年 ヲ月 | 3 日 4 日 | 参加 不参加 |
| 印をつけてください。 教員 職員一般 その他 | | | | |
| | | 年 ヲ月 | 3 日 4 日 | 参加 不参加 |
| 印をつけてください。 教員 職員一般 その他 | | | | |
| | | 年 ヲ月 | 3 日 4 日 | 参加 不参加 |
| 印をつけてください。 教員 職員一般 その他 | | | | |

- 1 4 名以上参加する場合には、必要枚数をコピーして、必要事項を記入して下さい。
- 2 ファクス、または E メールで 7 月 2 0 日(火)までに、お申し込みください。
(FAX 0 3 - 5 3 0 4 - 7 8 1 3)